

DAS KAPITAL

ついに『資本論』(第一分冊)読了!!

次回「資本論を読む会」
(第18回)は

日時：2020年3月24日(火) 午後6時～
会場：支局・社青同事務所



2月18日に開いた「読む会」には、今回も8人が参加。「第4章第3節 労働力の買いと売り」をやりました(岩波文庫(一)p290-終わりまで)。

内容はともかく、ひたすら読み合わせしながら議論して、とうとう「資本論」第一分冊を読了させました。2018年9月11日に第1回を始めてから1年と5カ月です。感慨深いものがあります。

「労働力という商品の謎」「労働力の再生産費」云々、何か聞き覚えがありますね。この「労働力という商品が剰余価値を生む」という、みなさん知っている筋書きは、次回の第二分冊「第3篇 絶対的剰余価値の生産」から書かれています。

初めの方大歓迎。また、これまでの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

第四章「貨幣の資本への転化」 第三節「労働力の買いと売り」

○資本の価値増殖を、「G-W-G'」の各要素で見れば、①「G・G'」は同一の価値しか示さず、②「G-W」と「W-G'」の流通行為も等価交換である。だから、変化は買われる商品「W」の「使用価値」・「商品の消費」から起こる(W...W')。商品の使用価値が「価値源泉・労働の対象化」である特殊な商品が市場に現れ、「労働能力」・「労働力」がこれである。

○労働力が市場に出現する条件は、①労働者が「労働力の自由な所有者」として、本人の意思で労働力を「商品」として、「一定時間」だけ売る。しかし、労働力の所有は放棄しない。②「生産手段」と「生活手段」を持たないためである。貨幣所有者はそれを買ひ、「貨幣を資本に転化」する。

○その結果、労働者は「二重の意味で自由」である。「自由な人格」として労働力を売り、他方で、「労働力の現実化」に必要な「生産手段と成生活手段」から放免され「自由」である。

○「自由な労働者」が現れるのは、商品・貨幣・貨幣機能等と同様に、「先行する歴史の結果」である。それら諸範疇は、資本制に先行する商品流通内に存在できたが、「資本」は商品・貨幣流通だけが必要なのではなく、「労働力」を市場で見いだすところに成立する。この一つの歴史的條件は、世界史を包括する。したがって、資本は初めから、社会的生産過程のある時代を告知する。

○「労働力の価値」は、他の商品同様、その「再生産に必要な労働時間」に規定され、「彼の生活手段の生産に必要な労働時間」に等しく、元の状態に「再生産」されることが必要である。

○「労働力の価値」に含まれるのは、①衣食住等の自然的欲望の充足。それは、⑦地域・自然条件で異なり、④欲望の範囲は一国の歴史的・文化段階により、特に労働者階級の習慣や生活要求の内容で変わる。②「労働者」の生殖条件、労働者の子供たちの生活手段。③専門技能や熟練を育てる教養・教育の習得費。④様々な期間ごとに必要な生活手段の総計を均等化した量。

○労働力「価格」の最低限は、「肉体的に欠かせない生活手段量」の価値であるが、それは価値以下になつたのであり、労働力を委縮した形で育成することになる。「正常な品質」が商品価値の前提であるから、労働力も正常な品質を維持するための必要労働時間に規定される。

○特殊な商品である労働力は、売買成立時点では、使用価値がまだ買手の手に移行していない、つまり譲渡契約とその現実の支出は、時間上は分離している。そのため、「労賃」は、「支払手段」として機能し、後払いとされる。労働者は資本に「信用貸し」「前貸し」しているのが現実である。

○労働力の「価値規定」は理解した。他方で貨幣所有者が受け取る「使用価値」・労働力の消費過程は同時に、商品と剰余価値の生産過程であり、全ての「商品消費」と同様に市場・流通の外で行われる。その、隠れた「生産の場所」で、資本の生産方法・貨殖の秘密が明らかとなる。

○流通・商品交換の部面は、「人権の真の花園」であった。①自由:買手・売手は自由意思で法的に対等な人として契約する、②平等:ただ商品所有者として関係し等価交換する、③財産:各人が自分のものを処理するだけ、④ペンサム:彼らが関係を持つ唯一の力は、利己・特殊利益・私的利益の力のみ。さらに、各人が自分のことのみにかかわり、他人のことにはかかわらない。

○以上のように、「単純な商品流通」の部面から、俗学的自由貿易論者は、様々な見解を得てくるが、そこを離れた「生産部面」では、「人権の真の花園」とは全く異なることが行われている。(from Tak)